

## 〈研究ノート〉

## 隠語集のなかの長野県方言

## Some Nagano-Dialects in Secret Language Books.

大橋敦夫

キーワード：隠語・隠語集・方言・長野県方言

## 1 はじめに

地域の方言に対する興味・関心から作成された一般的な方言集・方言辞典とは、違った観点から、特殊な分野の地域方言を採集した資料群がある。すなわち、隠語集と呼ばれるもので、そのうち、警察等がその職務上の必要から作成したものは、取締対象分野の用語が使用地域を明示して収められている例がある。本稿では、それらのいくつかを対象資料に、収録語彙の様相を通覧し、資料が語ることを取りあげてみたい。

## 2 隠語集と語彙の収録状況——長野県方言を例に——

管見にふれた資料と、その語彙の収録状況について、長野県方言を例に列挙してみる。

## ① 『日本隠語集』 広島県警部・稲山小長男編 後藤待賓館 明治25年8月

9の類別を立て、各類別の中を県別にして語を列挙。「ムスメ」 [=土蔵ノコトヲ云フ] など、他県でも使うものも多く含んでいる。

## ② 『隠語輯覧』 京都府警警視・富田愛次郎監修・高柴巖著 京都府警察部出版

大正4年11月

7類別・50音順、使用地域の記載があるのは一部の語のみ。「長野地方と記載のあるのは、「かいん」 [=薄荷行商人] 「すいかいん」 [=薄荷行商人] 「べてんながし」 [=頭上ニ葦ヲ載セ、市中ヲ菓子ナド賣リ行ク旅商人] 「とんかん」 [=強盗] 「やちやま」 [=貸座敷] の5語。

## ③ 『司法警察 特殊語百科辞典』 前警視庁警視・高久景一編 司法警察学会

昭和6年8月

「いしのしたのかじか(石下鯨)」 [=漬物類「かじか」に同じ] (長野)

「かし」 [=数量の三](信越) 「かつ」 の転化

「けつぱり」 [=逃走、行衛不明] (長野鑛夫) など7語。(50音順)

## ④ 『隠語構成様式並に其語集』 医学博士・樋口栄著 警察協会大阪支部

昭和10年6

県別にし、「長野縣隠語」として、195語をアトランダムに列挙。  
 「やばい」 [=危険なる事を云ふ]などにまじって、  
 「あさま」 [=煙草を云ふ]「石の下の鱒」 [=菜漬を云ふ]  
 など、地域特有の例がある。

- ⑤ 『隠語符牒集』法務庁研修所 昭和23年12月  
 50音順のあとに、施設場所・地名・人・数の4類をたてる。  
 「おどり」 [=喧嘩（體全體であばれるから）]闇屋仲間  
 「ころまつた」 [=警察官（こら、まつたより來た）]  
 など、語源・使用層についての記述がある場合もある。33語。
- ⑥ 『隠語全集』最高検察庁刑事部監修 刑務協会 昭和27年11月  
 隠語・符牒・方言の3類に分け、50音順。隠語の部に、  
 「はと」 [=善光寺]「もろっこ」 [=小諸]など、4語。方言の部に、  
 「おざんざ」 [=麵類の事]「ねこ」 [=胴着]など、23語。
- ⑦ 『現代隠語辞典』隠語研究会編 武蔵書房 昭和31年8月  
 50音順。  
 「かいん」 [=薄荷行商者]「せなき」 [=怠けること]など、4語。

### 3 収録語彙の特徴

明治中期から昭和中期に及ぶ資料を通覧すると、やはり時代の推移を感じさせる。今や、日常生活で、薄荷の行商を見ることはないし、警察官の応対も一般に丁重である。使用層にかたよりのある語彙なので、今現在も継承され使用されているかは不明だが、記録されたものの中には、「あさま」（浅間山の噴煙に由来か）「はと」（境内にはハトが多い）など、地域性が出ているものもあつた。これらが、長野県の例に固有の特徴であるか否かは、今後の調査に俟ちたい。

### 4 おわりに——今後の展望——

前節でもふれたが、他地域の用例との比較を多角的に行ない、隠語集のなかの長野県方言の特徴を明らかにしたい。可能ならば、当該現場での現在の取り組みについて教示を受け、現代の使用例についても目配りをしてみたい。

【使用文献】①～④・⑦は『隠語辞典集成』大空社1996—1997、⑤・⑥は架蔵本。